

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## <講演> 学校における表記の非日常性

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 棚橋, 尚子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00000902">https://doi.org/10.15084/00000902</a>

## 講演4

# 学校における表記の非日常性

棚橋 尚子（奈良教育大学教育学部教授）



たなはし ひさこ

奈良教育大学教育学部教授。10年間の小・中学校教諭経験を経て大学勤務に。論文に、「漢字習得におけるルビの有効性の解明」（『国文一研究と教育』30号、奈良教育大学国文学会、2007年）、「教科に特徴的な漢字に関する考察—他教科における漢字指導の可能性—」（『国語科教育』67号、全国大学国語教育学会、2009年）ほか。

皆さま、こんにちは。本日は「学校における表記の非日常性」というタイトルでお話をさせていただきます。先ほど小駒先生のご発表に「自由度」の話がありましたが、そういう意味から申しますと、少し自由度の低いところのお話になると思います。本日お話しする内容は、主に小学生の事例になります。文字の習得の過程にある小学生は文字を知らないがゆえに、また、彼らを混乱させないために、私たち大人の世界ではあまり目にしない表記を学んでいくこととなります。

## ◆学校教育における文字・表記の学習

学習指導要領に、文字習得に関する記述があります。ご存知のように、日本語は漢字、仮名、ローマ字など複数の字種を使って表記します。低学年では仮名の学習を行います。漢字については、小学校では1006字の教育漢字を学びます。ローマ字は3年生で学びます。また、常用漢字は中学校で読みを、高等学校で書きを習得しますが、中学生でも現状ではかなりの常用漢字を書いている実態があります。

表記については、長音、拗音などの特殊音節の書き方や、句読点、かぎなどのほか、漢字仮名混じり文への関心を持つことや、送り仮名の書き方などを小学校で学びます。中学校、高等学校では文章における表記の効果など、高次から表記を見ていく学習を行います。

## ◆分かち書き

図1の文章はある教科書会社の小学校2年生の説明文教材の一部です。小学校低学年の教科書では、このように原則として文節で分けて文を表記しています。これを

「文節分かち書き」と言います。日本語の表記はもともと、漢字と仮名の書き分けで語を弁別していきますが、小学校1年生では80字の漢字しか習得していませんので、2年生の教科書ではこのような分かち書きを取ることになりま



図1 小学校低学年国語教科書の文節分かち書き

す。

この分ち書きは、小学校の子どもに語の切れ目を認識させやすく、文字を追いややすくする効果があります。しかし音読などをさせていくと、中には、空いているところをすべて切つて読んでいく子どもが出てきます。私の勤務校は教員養成大学であるため、大学の授業でもこのような低学年の教科書を持たせて音読させるのですが、分ち書きがしてあると大学生でも、読点でないところでどんどん切つていこうとします。それで、小学校の授業では「点は1拍休むのですよ、丸は2拍休むのですよ」と先生が手で打つて句読点の位置のみで休むということを知らせながら音読の練習をさせたりします。この分節分ち書きは、語を判別する効果がある一方で、実は読点への意識を向けさせにくくする難点もあります。

### ◆交ぜ書きと振り仮名

次に、交ぜ書きと振り仮名の問題に移りたいと思います。図2は小学校3年生の物語文の教材です。「ちいちゃんのかげおくり」、あまんきみさんの作品です。

冒頭部を2種類並べてあります。左右同じようなものが二つ並んでいます。右が昭和61年、左が現行版の平成23年教科書の表記です。見ていただきますと、昭和61年の方では「出せい」や「先ぞ」というように交ぜ書きになっている語句がありますが、現行版ではそれらの語句は漢字に振り仮名を付けた形で表記されています。

表1は「ちいちゃんのかげおくり」において表記が異なっている部分の経年変化を表したものです。七つの語句の表記が対象となりますが、多くの語句は最初に交ぜ書きだったものがだんだんと振り仮名付きの表記に変わっていくという傾向にあります。近年の学習指導要領では、

文字に関する事項の取り扱いとして、「当該学年より後の学年に配当されている漢字については振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示する」として、かなりの熟語が交ぜ書きをせずに漢字提示されるようになってきました。

興味深いのは、いったん振り仮名付きの熟語になった「せつめい」です。

ちいちゃんのかげおくり


あまんきみこ

「かげおくり」って遊びをちいちゃんに教えてくれたのは、お父さんでした。

出せいする前の日、お父さんは、ちいちゃん、お兄ちゃん、お母さんをつれて、先そのはかまいりに行きました。その帰り道、青い空を見上げたお父さんがつぶやきました。

「かげおくりのよくてきそうな空だなあ。」<sup>10</sup>

「えっ、かげおくり。」



ちいちゃんのかげおくり

あまんきみこ作  
上野紀子 絵

「かげおくり」って遊びをちいちゃんに教えてくれたのは、お父さんでした。

出征する前の日、お父さんは、ちいちゃん、お兄ちゃん、お母さんをつれて、先祖のはかまいりに行きました。その帰り道、青い空を見上げたお父さんが、つぶやきました。

「かげおくりのよくてきそうな空だなあ。」

「えっ、かげおくり。」

図2 国語教科書の交ぜ書きと振り仮名

	おとうさん	しゅつせい	おにいちゃん	せんぞ	とお	せつめい	きねんしゃしん
昭和61	お父さん	出せい	お兄ちゃん	先ぞ	十	せつめい 説明	記ねん写真
平成1	お父さん	出せい	お兄ちゃん	先ぞ	十	せつめい 説明	記ねん写真
平成4	お父さん	出せい	お兄ちゃん	先祖	とお 十	せつめい 説明	記ねん写真
平成8	お父さん	出せい	お兄ちゃん	先祖	とお 十	せつめい 説明	記ねん写真
平成12	お父さん	出せい	お兄ちゃん	先祖	とお 十	せつめい 説明	記ねん写真
平成14	お父さん	出せい	お兄ちゃん	先祖	とお 十	せつめい 説明	記ねん写真
平成17	お父さん	出せい	お兄ちゃん	先祖	とお 十	せつめい 説明	記ねん写真

表1 「ちいちゃんのかげおくり」における表記の経年変化

図3と4はそれぞれ理科と家庭科の教科書の一部です。現在は小学校の教科書

と家庭科の教科書の一部です。現在は小学校の教科書

で、教科書全体の語句のバランスを考えて、振り仮名を付けたら、交ぜ書きにした

最初から「説明」は振り仮名付きだったので、これが新しい方の版ではすべて平仮名の表記になっています。この経緯について教科書会社に問い合わせましたところ、教科書検定の際に振り仮名付きの語句の割合に歯止めがかけられるそう

とはいえ、漢字が多く提示され、振り仮名が多用されている現状があります。ただ、家庭科の方を見ますと、「洗濯」や「洗剤」のような日常的に子どもたちがよく知っている用語については、あえて漢字表記をせずに交ぜ書きのままになっています。

思うに、「出せい」や「先ぞ」といった熟語ではなくて、「せつめい」という比較的平易な語句表記が平仮名になる要因には、児童が日常的によく耳にし、一つの単語として認識できている語であるという点が大きいのではないかと推測できます。このことは、国語科以外の教科書の漢字表記を見た場合、教科に専門的な用語がより漢字表記になりやすい傾向があることから分かります。

図3と4はそれぞれ理科と家庭科の教科書の一部です。現在は小学校の教科書と家庭科の教科書の一部です。現在は小学校の教科書



図4 家庭科教科書



図3 理科教科書



## ◆原典との表記差

先ほど「ちいちゃんのかげおくり」の経年変化、表記の変化を見ましたが、ここで原典である絵本の表記と教科書の表記を比較してみます。

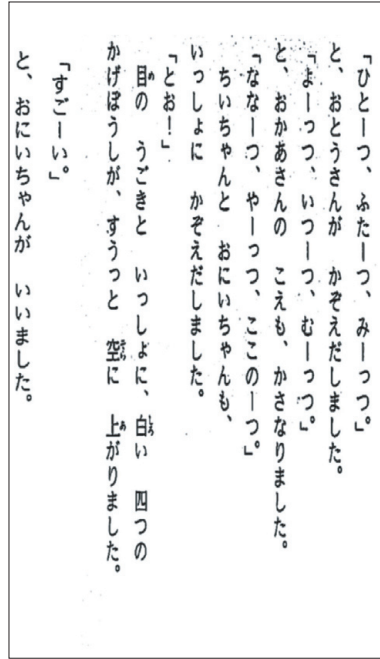


図5 原典の絵本

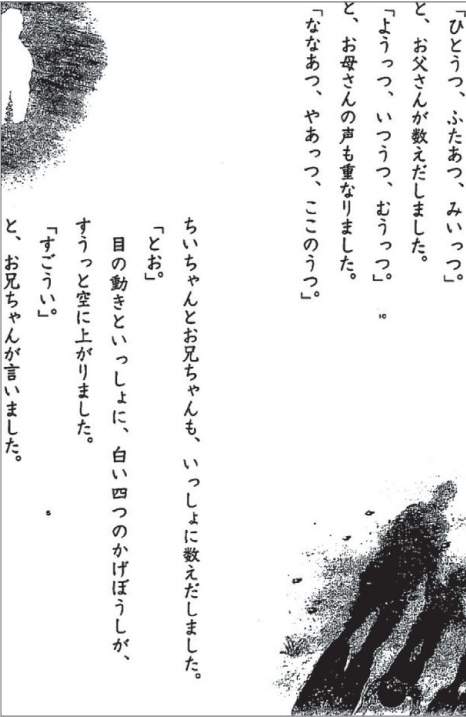


図6 国語教科書

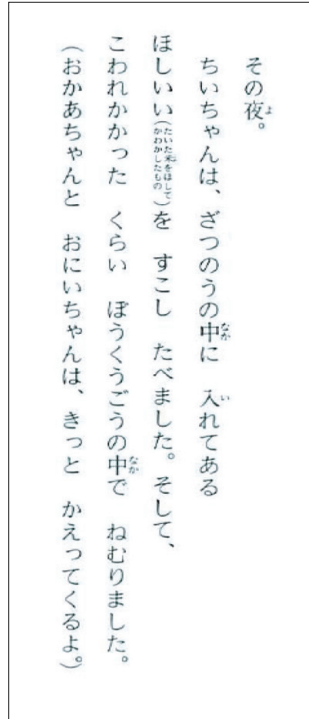


図7 原典の絵本

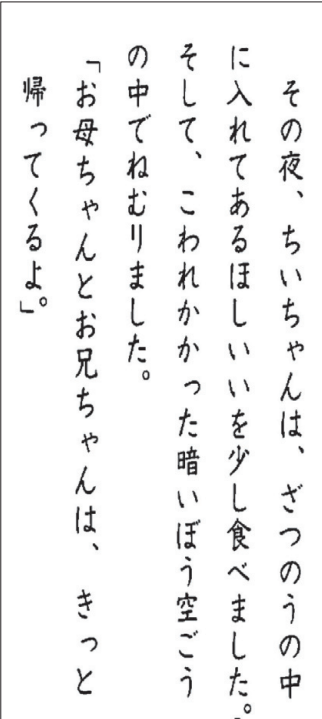


図8 国語教科書

この「ちいちゃんのかげおくり」は1982年に出版され、1983年に小学校低学年向けの課題図書になった作品です。

図5は原典である絵本の表記、図6が教科書の表記なのですが、教育漢字は教科書に所収される際に漢字に変更されますので、原典に比べると教科書では漢字そのものは多く表記されていることが分かります。また、漢字以外で決定的にすぐ分かるのが、長音を表す表記として原典の方では棒引きの長音符号を使っているのに対して、教科書の方には平仮名の長音表記の仕方がとられていることです。図6の教科書の最後の方の記述に「すーごーい」とあります。もちろん図5の原典の方は

「すーい」と棒引きを使って伸ばしています。あとは符号の「びつくりマーク」が丸になっているという異同があります。

国立国語研究所のサイトに「少納言」というコーパスの言語資料を検索するエンジンがあります。そのサイトで「すーい」が一般的にどのよう書かれているのか見てみますと、41例あったもののうち、「すーい」は100%で、「すこうい」という表記はありませんでした。つまり、日常的に「すーい」と表記する場合は平仮名でもすべて長音の棒引き符号を使っていることになります。このように、学校の中における表記は、日常の表記実態とはかなり離れたところにあるといえます。

それから、もう一つ表記の差として、句読点の差があります。図7と図8を比較してみますと、原典の方では「その夜。」となつていますが、教科書に変わりますと「その夜、ちいちゃんは…」と、一つの文章として成立すべきところは句点から読点に変えています。

また、心内語は原典では丸括弧で示してありますけれども、教科書の方ではかぎを使って示しています。これは先ほどもお示しました学習指導要領の指導内容に合致するように変えられているわけです。つまり、子どもたちは日常的に使用されている表記とはかなり異なる、窮屈な、しかしながら標準的な表記を学習しているのだと言えます。

## ◆片仮名の表記

今、長音表記のことを申し上げましたが、この長音表記にかかわって片仮名語のことで少しお話ししたいことがあります。片仮名の表記の中では、伸ばす音はもちろん長音符号を使って表記するわけですが、小学生には片仮名は、平仮名を習得した後で教えますので、1年生の早い段階で子どもたちはまだ片仮名を知らない状況にあります。しかし皆さまもよくご存じのように、世の中には片仮名語があふれています。

したがって、学校の中でも片仮名未習時に、片仮名語句を実際に子どもたちに提示しなければならない状況が生じます。

その際、片仮名ではなく、平仮名で提示していくこととなりますが、その場合困るのが長音表記なのです。例えば1年生でも子どもたちが連絡帳を書かせますが、明日の持ち物でノート、ボールなどと書く場合が悩ましいことになります。片仮名で「ノート」「ボール」と書けばいいのですが、習っていないわけですから平仮名を使うこととなります。この場合、長音を表すのに「う」か「お」か「長音符号」というバリエーションが考えられます。原則的には、平仮名の長音表記に従って「のう」と「う」を使って書くのがよいのだと思いますが、そもそも片仮名語のため、先ほどの「すこうい」と同じようにかなりの違和感が生じます。

## ◆歴史的象と数字表記の関係

教科書と表記の問題でさらに考えてみたいのが、縦書き・横書きと表記の関係です。現在、小学校から高等学校まで、国語科以外の教科書はおおむね横書き表記を取っています。私もそうだったのですが、皆さまの中には小学校のころ社会科教科書は縦書きであったという記憶がおりの方もいらっしゃるかと存じます。しかし、現在では小学校の社会科の教科書は全社横書き表記を取っています。平成元年に小学校の教科書の多くがA5版からB5版になったのに伴って変わりました。

これによつて表記が変化することになった語句に「十七条の憲法」と「冠位十二階」があります。図9はまだ縦書き表記だった時代の社会科の教科書ですが、もちろん「冠位十二階」も「十七条の憲法」も漢数字を使って書いています。ほとんどの会社は横書き表記に変わったときにも漢数字のまま提示したのですが、1社だけ図10のように「17条の憲法」と算用数字を使って表した事例があります。この社はずっと最近

まで、算用数字を使ってこのような歴史的な事象を表していました。

図11も同じ会社のもですが、今年度(平成23年度)から使われている最も新しい教科書では、「冠位十二階」も、「十七条の憲法」も図にみられるように漢数字に変えています。しかも、この会社だけ、「十七条」のところに「じゅうしち」と振り仮名を付けてもいます。ほかの会社はこの振り仮名を付けていませんので、子どもさんによつては「じゅうななじょうのけんぽう」と読んでいるかもしれません。どちらでもいいの

太子は、二十才で天皇の政治を助ける摂政になると、蘇我氏をはじめとする朝廷の豪族たちの協力のもとに、天皇を中心にして、国を一つにまとめようと努めました。太子は、まず、冠位十二階を定めたり、十七条の憲法を示したりしました。

天皇中心の国をつくる 聖武天皇が位につく  
150年ほど前、6世紀のころの大和朝廷では、豪族たちがたがいに勢力を争っていました。  
574年に天皇の皇子として生まれた聖徳太子は、20才で天皇の政治を助ける摂政になると、当時大きな勢力を持っていた蘇我氏と力を合わせて、天皇を中心とする国づくりを始めました。  
太子は仏教をあつきたつとび、17条の憲法を定めて政治を行う役人の心構えを示しました。また、中国(隋)へ小野妹子を送って対等な付き合いを求め、その後も使者や留学生を送って大陸の文化を取り入れました(遣隋使)。

図10 横書き社会科教科書

図9 縦書き社会科教科書

しませんが、普通「じゅうしちじょう」と読むのではないかと思います。

この経緯を当該の教科書会社の方に伺いました。図12は旧版教科書の本文以外の部分に書かれた説明です。担当の方がおっしゃるには、条文説明の部分では「第1条」、「第2条」と算用数字を使いたい。その場合、タイトル部の「17条の憲法」のところだけ漢数字を使ってしまおう子どもたちが混乱するかもしれない。したがって、あえてこのようにしていたということでした。教科書会社の方々も随分の件については考えていらつしやつたようです。今年度版から漢数字を使ったのは、やはり歴史的な固有な名ということへの配慮とことでした。つまりこれまでは歴史的固有な名よりも子どもさんの発達段階にふさわしいと思われる表記方法を優先させていたということだと思います。

年	太子の行ったこと	社会のできごと
574	聖徳太子が生まれる	●新羅がたがいに争う
580		●蘇我氏少子をもつ
582	聖徳太子が摂政となる	◆隋が中国を統一する
7世紀		
603	冠位十二階を定める	
604	十人制の郡官を定める	
607	遣隋使を送る	
	法隆寺を建てる	
618		◆隋が唐に滅ぼされる
622	聖徳太子がなくなる	

聖徳太子の国づくり 天皇の子として生まれた聖徳太子は、20才のときに天皇の政治を助ける役職である摂政になりました。そして、当時大きな勢力をもっていた蘇我氏とともに天皇中心の新しい国づくりに取りかかりました。  
太子は、冠位十二階を定め、家柄や出身地に関係なく能力や功績で役人を取り立てることにしました。政治を行う役人の心構えを示すために、十七条の憲法も定めました。また、仏教をあつくり信仰していた太子は、法隆寺などを建てて、仏教の教えを人々の間に広めようとして、国づくりに新しい制度や文化、学問が

つかむ 聖徳太子はどのようなことをした人物なのでしょうか。

◆十七条の憲法  
第1条 人の和を第一にしなればなりません。  
第2条 仏教をあつくり信仰しなさい。  
第3条 天皇の命令は必ず守りなさい。  
第12条 地方の役人が、自分勝手に、みつぎものを取ってははいけません。

図11 社会科教科書(新版)

17条の憲法  
第1条 人の和を第一にしなればなりません。  
第2条 仏教をあつくり信仰しなさい。  
第3条 天皇の命令は必ず守りなさい。  
第12条 地方の役人が、自分勝手に、みつぎものを取ってははいけません。

図12 社会科教科書(旧版)

## ◆教科で異なる数の書き方

算数などの教科書を見ますと、熟字訓であるはずの「ひとり」の表記も、横書きであることが影響しているのだと思いますが、「1人」と算用数字を使って提示している実態があります。算用数字を使って「1人」と書くか、漢数字を使って「一人」と書くかは、先ほど紹介した検索エンジン「少納言」では、今現在の表記実態としてはほぼ同数です。横書きにした場合、多くの方は「ひとり」と書くときに算用数字を使って書くのではないのでしょうか。

私の大学には縦書きでも算用数字を使って「1人」と書く学生がたまにいます。今日は時間の関係で書字方向の話はしないのですが、最近縦書きをしなくなりました。学校現場でも横書きで作文やレポートを書かせるばかりで縦書きをしなくなっていますが、そのことと、このような社会での使用実態に子どもたちが慣れていくことが相まって、縦書きでも「1人」と書く学生がいるのだと思います。

## ◆大学生でも書けない漢字表記

大学生の話題が出ましたので、次の話題に移りたいと思います。先にも申し上げましたように私どもの大学は教員養成系の大学なのですが、「小学校国語」という授業で教育漢字1006字を対象とした漢字テストをしています。学生たちはこのテストをかなり舐めていて多分ほとんど勉強をしてこないのですが、教育漢字だからといって完全に書けるかというと、そうではありません。以下は、ある年度の大学生の書けない漢字のベスト5です。

### 戸外で遊ぶ

祖父は読本で勉強した  
円い葉っぱ

案の定  
思いの外

「戸外で遊ぶ」が書けないのです。「戸外」はあまり使わないのかなと思いますが、「湖外で遊ぶ」と書く学生が非常に多くて、その人たちは湖の中に住んでいる人をイメージしているのかなと思います。でも、これは許せるかなと思うのは「小貝で遊ぶ」と書く例です。それならば「貝合わせ」のようなイメージで分かるような気がします。どちらにしても「戸外」と書けないし、もちろん「読本」などという言葉は知らないわけです。しかし、学生たちは「戸」や「外」という漢字が書けないわけではないのです。一字一字は書けるのです。語彙的な力がないため表記することができないのです。このようなことを考えると、学校現場では、漢字指導を表記指導や語彙指導などととらえる観点が若干少ないのではないかと思います。どちらかといえば字形の指導をしているような実態があるのです。そのことにのみ少し触れさせていただきました。

## ◆表記よりも「字形重視」の教育現場

小学校の先生方はテストのときに細部への目配りとして、ほとんどの方が、とめはねなどを気にしながら採点をしているわけです。表2は私が教員を対象にアンケート調査をした結果ですが、90%以上の方が、細部に目配りして採点をしていることが分かります。

今でも忘れていないのですが、私が中学3年の時に「接続」の「接」を間違いだと言われたことがありました。「てへんもはねているし、どこが



違うのだろう」と思っていましたら、「『女』の2画目は打ち込みの点が3画目の少しだけ上に出ないといけない。君のは出すぎだ。これは『女』ではない」と言われて、Xを付けられました。中学生ながらかなり頭にきたのを覚えています。

常用漢字表の前書きには相当広範囲な漢字字形の許容が示されていますが、多分、ご自分たちが受けてこられた漢字テストの採点基準が、脈々と受け継がれているのだと思います。

そして、例えばこういうところになんか意識を注いでいる先生もおいでです。図13の「恩」の「大」の3画目はとめるのか、はねるのか……。教科書会社によって字体差があるので、どうでもいいわけです。常用漢字

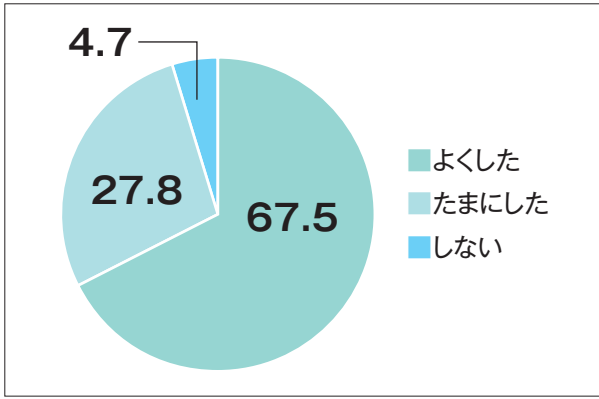


表2 テストの際、細部へ目配りをしたか (棚橋調査:251名対象)

の漢字表の前書きをしっかりと見てほしいと言いたいのですが、結構このような細部にこだわって採点されるのです。大人になって、こういうところアバウトで何か文句を言われる事態がありますか。ありませんよね。もちろん基礎をきちんとしないとイケないということだろうとは思いますが、私が非常に心配しているのは、こういうことで子どもたちが漢字嫌いになっていってしまうので

はないかということです。学校現場というのは、このような点からも「非日常的な指導を積み重ねているのだと思います。」

時間となりましたので、ここで終わらせていただきます。ありがとうございました。

### 図版出典

- 図1 光村図書 小学「国語2年上」(平成23年)、たんぼのちえ、(文)植村利夫、(絵)瀬戸照
- 図2右 光村図書 小学「国語3年下」(昭和61年)、ちいちゃんのかげおくり、(文)あまみきみこ、(絵)上野紀子
- 図2左 光村図書 小学「国語3年下」(平成23年)、ちいちゃんのかげおくり、(文)あまみきみこ、(絵)上野紀子
- 図3 東京書籍 小学「理科6年下」(平成21年)、(実験の写真)教学図書協会、(実験の図)門馬朝久
- 図4 東京書籍 小学「家庭科5、6年」(平成21年)、(イラスト)岡島伸子、(写真)本文表等、教学図書協会
- 図5 あかね書房「ちいちゃんのかげおくり」(昭和57年、(文)あまみきみこ、(絵)上野紀子
- 図6 光村図書 小学「国語3年下」(平成23年)、(文)あまみきみこ、(絵)上野紀子
- 図7 あかね書房「ちいちゃんのかげおくり」(昭和57年、(文)あまみきみこ、(絵)上野紀子
- 図8 光村図書 小学「国語3年下」(平成23年)、(文)あまみきみこ、(絵)上野紀子
- 図9 東京書籍 小学「社会科6年上」(昭和64年)、(本文)教学図書協会
- 図10 東京書籍 小学「社会科6年上」(平成17年)、(本文)教学図書協会
- 図11 東京書籍 小学「社会科6年上」(平成23年)、(写真)悠工房、(写真以外)教学図書協会
- 図12 東京書籍 小学「社会科6年上」(平成17年)、(写真)宮内庁侍従職、(写真以外)教学図書協会

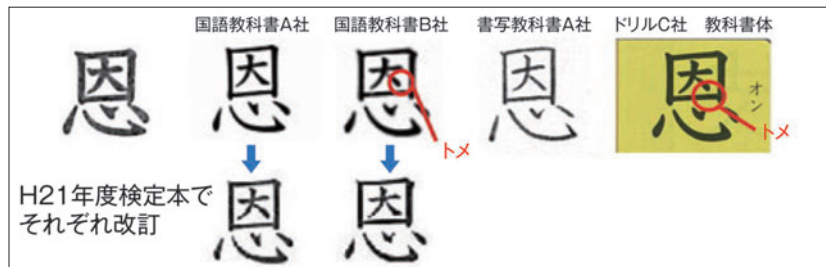


図13 「恩」の字形